

株式会社はんぼさき

事業名：漁船操業管理システムの開発

Q.実証事業に応募したきっかけを教えてください。

知り合いの方より、弊社の事業が今回の実証事業にマッチするのではないかとご紹介を受けました。日本各地で競争型の漁業から資源管理型の漁業に移行していく流れが少しずつ生まれてきていますが、プール制への移行など先駆的な事例が複数存在する三重県において、この流れを後押しできるシステムを提供できるのではないかと感じ、応募させて頂きました。

Q.三重県で実証して良かった点を教えてください。

実証事業を進めるにあたり、県庁の方々より、志摩市・南伊勢町等の自治体の方々を經由して、生産者、漁協、水産研究所、水産事業者、大学教授等、様々な方を積極的にご紹介頂きました。ご紹介頂いた方々からは、システム開発の優先度判断に影響を与えるような意見を頂いたり、実際にテストアプリを試用して頂く機会も得ることができ、プロジェクトの推進に大きく貢献して頂いたと感じております。また、三重県は北部と南部で地域課題の質が異なるため、1県の中で多様な課題をヒアリングできたことも良かったと感じています。

Q.本事業で何を実証したのか教えてください。また、その結果もあわせて教えてください。

弊社で開発したシステムを、実際に現場の方々を利用して頂き、多くのフィードバックを得ることができました。尾鷲市で遊漁船や定置網漁を行っている方、答志島の漁師の方々、鳥羽のアカモク漁師の方、志摩で水産資源の調査や定点観測を行っている方等に利用して頂きました。結果、期待して頂ける方とそうでない方を分ける境界線に関して解像度を上げることが出来ました。前者に関しては特に、少人数で情報共有を行おうとしている漁師や、水産資源の調査を行っている方々の課題解決には役立ちそうだという感触を得ることができました。また、得られたフィードバックを踏まえて、具体的に機能開発の順序を変更しました。

Q.今後、この実証事業を三重県または全国でどのように展開していくのか教えてください。

まずはアプリをApp StoreおよびGoogle Playでリリースします。全国で可能な限り多様な方々に利用して頂き、どのような漁や漁業形態にマッチするのか、漁協・部会・水産会社・漁師仲間・家族等どのようなグループ形態にマッチするのか、といったポイントについて検証していきます。仮説に関する解像度を上げた後、同様の課題を持つ方々に対して全国的に、面でアプローチをかけられる方法で広げて行こうと考えています。

<三重県担当職員からひと言>

小林代表の事業への想いや現場のニーズを疎かにしない姿勢、地域の人達の懐に飛び込んでいく大胆さなどに、一個人として感服した次第です。はんぼさき様の技術で、日本の漁業が半歩と言わず、一歩でも二歩でも大きくデジタル化へ進むことを願っています。
(創業支援・ICT推進課 奥村さん)



<実証事業の様子>

